



先生方による会場設営



在校生 校歌練習



卒業生 呼びかけ練習

卒業式に向けて、みんなで努力！

今年度の卒業証書授与式は3月24日（月）です。卒業式に向けて、子どもたちも先生方も準備をスタートしました。

ですが、6年生を中心にインフルエンザ罹患者が増え、思い通りの卒業式練習ができていません。最悪、ぶっつけ本番の卒業生もいるかもしれません。それでも、心に残る卒業式にしようと、在校生たちは頑張っています。

保護者のみなさまには、子どもたちの健康面での配慮をくれぐれもよろしくお願ひします。特に卒業式前の3連休は必要以上の外出は避け、十分な栄養、十分な睡眠にご配慮願ひます。

知っていますか？ 「旅立ちの日に」エピソード

卒業式の「旅立ちの言葉」の中で、卒業生が歌う「旅立ちの日に」には、感動秘話があることをご存知でしょうか？

『旅立ちの日に』エピソード

埼玉県秩父市の影森中学校校長だった小嶋校長は、荒れていた学校を矯正するために「歌声の響く学校」にすることを目指し、合唱の機会を増やしました。最初こそ生徒は抵抗したそうですが、音楽科教諭の坂本先生と共に粘り強く努力を続けた結果、歌う楽しさによって学校は明るくなっていったということです。

「歌声の響く学校」を目指して3年目の1991年2月下旬、坂本先生は「歌声の響く学校」の集大成として、「卒業する生徒たちのために、何か記念になる、世界にひとつしかないものを残したい」との思いから、作詞を小嶋校長に依頼しました。その時は「私にはそんなセンスはないから」と小嶋校長は断ったようですが、翌日、坂本先生の机の上に書き上げられた詞が置いてあったといいます。その詞を見た坂本先生は、なんて素敵な言葉が散りばめられているんだと感激し、授業の空き時間に早速ひとり音楽室にこもり楽曲制作に取り組みました。取り組み始めると旋律が湧き出るように思い浮かび、わずか15分程度で曲を作ったといいます。出来上がった曲は最初はたった一度きり、「3年生を送る会」で教職員たちから卒業生に向けて歌うためのサプライズ曲のはずであったのですが、その翌年からは生徒たちが歌うようになりました。ちなみに初めて披露した年度をもって、小嶋校長は41年に及ぶ教師生活を定年退職したため、小嶋校長が披露したのはこれが最初で最後だったということです。

その後、しばらくは影森中学校だけの合唱曲であったのですが、まわりの小中学校でも使われだしたことで、1998年頃までに全国の学校で歌われるようになりました。

作詞をした小嶋元校長は3年前にお亡くなりになりましたが、亡くなられた年に埼玉県から「彩の国特別功労賞」が贈呈されたそうです。

草津小の子どもたちは「3つのがっ校＝学校・楽校・合校」をめざします。